

「2017年- 助けとなるのは」

- 121:1 私は山に向かって目を上げる。私の助けは、どこから来るのだろうか。
121:2 私の助けは、天地を造られた【主】から来る。
121:3 主はあなたの足をよろけさせず、あなたを守る方は、まどろむこともない。
121:4 見よ。イスラエルを守る方は、まどろむこともなく、眠ることもない。
121:5 【主】は、あなたを守る方。【主】は、あなたの右の手をおおう陰。
121:6 昼も、日が、あなたを打つことがなく、夜も、月が、あなたを打つことはない。
121:7 【主】は、すべてのわざわいから、あなたを守り、あなたのいのちを守られる。
121:8 【主】は、あなたを、行くにも帰るにも、今よりとこしえまでも守られる。

導入

本日は、新年1月1日です。この時期、特に昨晚から約3日間にかけて、数百万人もの日本人がお寺や神社を参拝することでしょう。

ほとんどの人は、2017年を迎えるにあたっての祈願のために参拝に出向きます。それは、健康、富、または来たる年の仕事に関する祈願かもしれません。将来の妻や夫がほしいと思っ
て訪れる人もいるでしょうし、試験に合格するための祈願、もしくは新しい仕事や昇進の
ための祈願など、参拝する理由は大変様々あることでしょう。

ここで私が問いかけてみたいと思う疑問は、この人たちは、いったい誰に対して祈っている
のか、またどのような助けを期待しているのかということです。

私が思うに、多くの人は、古くからの慣習や伝統からお寺や神社に参拝しているのではない
でしょうか。おそらく両親にそうするように教わるなどして、習慣になったのでしょう。そ
うすると、参拝はただの幸運のお守りのようなものです。

実話

これは、とあるアジアの国に宣教のために赴き、そこでの生活を経験した宣教師の話です。
彼はその地で、偶像が設けられている場所や神社に非常に多くの人々が訪れ、礼拝しているこ
とに気づきました。人々の多くは、直面している問題の助けや保護を求めてやって来るので
した。そこは、大変多くの強盗や泥棒がいる地域でした。

この宣教師は、どのようにすれば聖書に関する真実、イエスについて、またこの世をお創り
になった神について人々に伝えることができるかと考えました。

そこで彼は偶像礼拝を観察し、人々の考え方を理解しようと努めました。

彼は、出かけて行って銅でできた犬の像を買ってくることにしました。地元の店で購入し、
そしてそれを自分の家の玄関の前に置きました。

彼の家の前を通り過ぎる人は、彼が家の前に犬の銅像を置いていることに気づきました。そ
して、ある男性が立ち止まって、なぜ犬の銅像を玄関先に置いているのかと宣教師に尋ねま
した。

宣教師はその男性に、これは自分の身を守るために置いているのです、と答えました。するとその男性は笑って立ち去りました。

一週間の間、この村に住む人たちはこの宣教師の家の前を歩いては、犬の銅像を指さして笑い、立ち去りました。

その週が過ぎると宣教師は、今こそ聖書の神とイエス・キリストに関する真実を分かち合う時だと心を決めました。

まず最初に訪問した家で、彼はその家の人に、自分が犬の銅像を玄関先に置いたのは、自分の身を守るためではなく、この村の人々に分かち合いたいことを分かりやすく示すためだと説明しました。

彼は、人々が偶像や神社を訪問し、身の安全を祈ることは家の外に犬の銅像を置くのと同じようなことだと説明しました。

生命のない死んだ偶像に人を助けることはできず、いくら純粋な動機があったとしても、偶像を礼拝したところで何も助けを得ることはできない、それはまさに犬の銅像に家を守ってもらおうとする姿勢と同じことであると話しました。

では、導入でご紹介したこの実話を念頭に置き、詩編 121 篇から真実を見出していきましょう。

詩編 121 編は、重要な祭りを祝うためにエルサレムへ向かう道中でユダヤ人たちが歌った歌です。

巡礼者たちはエルサレムに近くなると、他の人たちが聖地として礼拝する場所を見るために丘を見上げました。ユダヤ人の巡礼者たちは、その地の多くの人たちが偶像を作り、その偶像に助けを求め寄り頼んでいることを知っていたのです。

1 節で、ユダヤ人たちは豊かな表現・技法を用いて問いかけます。他の人々が助けを求めていく場所を見つめ、助けを求めてどこへ行こうか、と問いかけるのです。

この詩編の残りの部分は、信仰と信頼を聖書の神に置く人々が受ける助けについて述べています。

この 2017 年に、皆さんも聖書の神に信仰と信頼を置くことをお勧めしたいと思います。

この詩編の著者は、偶像でも、人間の思いつく思想でも、宗教でもなく、聖書の神にこそ信仰と信頼を置くべき理由をいくつか示しています。

理由 1：聖書の神は、創造の神である

この詩編の著者は、聖書の神は天と地を創造されたと教えます。皆さんには、天がどのくらい大きなものかわかりますか？

天の別名は、と聞かれれば、それは宇宙でしょう。

では、ここで皆さんに、しばしの間私と一緒に宇宙船乗り込んでもらいましょう。さあ、旅の始まりです。

高速で移動しますので、どうぞシートベルトをしっかりとお締めください。光の速さで旅をしますよ。

光の速さで、1秒に7回地球の周りをまわることができます。いかがでしたか？
間もなく、所要時間2秒で月を通過します。火星は4分で、そして冥王星は5時間で通過です。

同じ速さで行けば、一番近くの星には4.3年もあればたどり着けます。

4.3年の間、毎秒ごとに30万キロ進むことになります。一番近い星は、40兆6823億キロメートル先です。

この星は、私たちが夜空に見ることができるもので、銀河系と呼ばれる星の大きな一群の一部です。

光の速さで旅をすれば、銀河系の端から端までは10万年もあれば渡ることができるでしょう。

宇宙には、だいたい見積もっても約100兆の銀河系があります。

なんと、天と宇宙はとてつもなく大きいですね！

聖書の神は、これらをすべてご自身で、誰の力も、もちろん機械の力も借りずにお創りになりました。私たちが宇宙について理解を深めるのは難しいかもしれませんが、自分が住んでいる地球については多少理解していると言って良いでしょう。

科学者たちや地質学者たちは、地球について、何年にも渡って研究してきました。彼らは、この地が驚くべき場所であると語ります。

人間は科学技術において驚くべき前進を続けてきましたが、無の状態から何かを作ることは決してできません。

神は、このユニークな世界を無からお創りになった、驚くべき、素晴らしい神なのです。

理由2：聖書の神はご自分の民を守る

素晴らしいことに、聖書の神は、神と私たちとが個人的な結びつき持てるようにして下さいます。

神と正しい関係を持つならば、神によって守られることが約束されます。それがどのようにあなたに実現するのか、後ほどご説明しましょう。

この詩編の著者は、神はご自分の民を様々な方法で守ってくださると語ります。

a) 聖書の神は24時間体制のケアを提供して下さる

ここには、神は眠ることがないと記されています。神は、私たちが眠りを必要とするように創造されましたから、眠る必要がないということがどのようなものなのか想像するのは難しいことですが、神は、私たちの生活を毎日24時間、守ることができるお方なのです。

日本で私たちが眠っている間、英国の人は午後のひと時を楽しんでいます。もしも神が24時間のケアを提供してくださらなかったら、世界のほかの地域の人たちにとっては不平等になってしまいますね。

b) 聖書の神は、昼は日から、夜は月から私たちを守ることがおできになる

Q. これはいったいどういうことでしょうか？

この詩は、中東のイスラエルに住む人々のために書かれました。この国は、4月から11月まで、大変暑い国です。もしも夜に屋外で寝れば、月によって目に悪影響が及ぶことでしょう。目を傷めてしまいかねません。

また私たちは、太陽の光線が有害であることも知っています。神は、太陽や月からの有害な影響からも、選ばれた民を守ってくださるとおっしゃっているのです。

c) 聖書の神は、諸悪から私たちを守ることがおできになる

2017年も、私たちの周りには悪が取り巻くことでしょう。

神はご自分の民を、この世の悪いものから守ることがおできになります。クリスチャンの信徒も、だれもがいつかは死ぬのですが、それがいつ起こるのかをお決めになるのは神で、悪い者たちではありません。

d) 聖書の神は、永遠に私たちの魂の世話をしてくださる。

これが、この詩全体において最も重要なポイントです。

私たちはしばしば、自分たちの霊的な生活よりも肉体的な生活の方を心配しがちです。神は両方を気にかけてくださいますが、私たちは今年、霊的な生活を重視していきましょう。

結論

この詩は、2017年を迎えるにあたり、何の問題もなくやり過ごすことを約束するわけではありません。しかしこの詩は、私たちが神の庇護の下に生きていること、そして神の助けに確信を持てることへの喜びを表しています。

応用

詩編121篇は、新年を始めるにあたって、すべての信徒にとって大変すばらしい約束となるでしょう。ですが、クリスチャンでない人にとってはどうでしょう。2017年の助けを誰に求めたらよいのでしょうか？

答えは簡単です。聖書の神と個人的な結びつきを持ち、2017年に神の助けを得ることを確信するのです。今日、今からご紹介する3つの重要な点を心で信じるならば、それを実践することができます。

1. 私は聖書の神により、神と結びつきを持つために創られた。

けれども、私たちの先祖で、最初に創造された人間であるアダムとエバが神に背いたことで、人間の性質に罪がもたらされてしまった。この行いによって、私たちはみな罪を犯し、聖なる神を怒らせてしまっている。

ローマ 3 : 23

3:23 すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、

ローマ 6 : 23

6:23 罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。

2. ご自身の内にある愛と哀れみのゆえ、ご自分の持つ聖さを妥協することなく、神の民を罰から救い出すための道を見出された。

罪は必ず聖なる神によって罰せられなければなりません。

神は、私たちの罰を代わりに受けるために御子をこの世界に送り、壊れてしまった関係を修復することを選択されたのです。

ヨハネ 3 : 16

3:16 神は、**実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。**それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

3. 聖なる神を怒らせていることを謝罪する
聖書の神は目で見ることができないかもしれませんが、神は聖霊により確かにここにいらっしゃいます。

一度自分の罪を認め神に謝罪をし、イエスが自分の罪のために死んでくださったと信じるなら、聖書の神との個人的な結びつきの関係を築く道が開かれ、2017年だけではなく、永遠に神のケアと守りとを味わうことができるでしょう。

アーメン。